

# 日本におけるマレーシア人留学生の文化的要因による コミュニケーション・ブレイクダウン

ジャファール・ビン・ジャムビ 福田 倫子

## Cross-Cultural Factors Caused Communication Breakdown among Malaysian Students in Japan

Jaafar Bin Jambi · Michiko Fukuda

The process of communication with the local people is very important when a student is studying abroad. Not only do they need language skills to communicate but also the skill to identify the differences in the cultural and custom background of the local people. When people from different cultural backgrounds are engaged in communication, it is widely known as cross-cultural communication. The success of any cross-cultural communication depends on producing an interaction that does not carry too much miscommunication between two different cultures.

This study focused on the communication behavior of Malaysian students and their interaction in Japanese society. The purpose of this study is to identify whether cross-cultural factors caused communication breakdowns during the process of communication between Malaysian students and Japanese people (students and lecturers). The results showed that the more the student interacted in Japanese society, the less often cross-cultural communication breakdowns occurred. However, when taking into account the duration of their stay in Japan, the study suggests that there is no significant difference in mean scores. Perhaps an in-depth study should be done to look into this matter empirically.

An implication of the study calls for encouragement and guidance to be given to foreign students to interact as much as possible with Japanese people so that communication skills can be learned directly from the interaction.

Keywords: cross-cultural communication, communication breakdown, interaction, conversation, cross-cultural factors.

## 1. はじめに

マレーシアのマラヤ大学には日本への留学を目的とした「日本留学特別コース」が設けられている。このコースに属する留学生（以下、マレーシア人留学生とする）には、毎年留年をする者が多く、その原因は日本語能力の低さにあると聞く。しかし、日本留学特別コースでは、留学生生活を支障なく送ることができるような日本語を習得するための2年のカリキュラムが組まれており、日本語能力だけが問題であるとは考えにくい。そこで考えられるのは文化的な要因である。異なる文化を持つ人とコミュニケーションをとる際には異文化の理解力が必要とされることから、日本の文化的な特徴に気づくかどうかは留学生活の成功の鍵になるのではないかと考える。

マレーシア人留学生は、どれだけ日本文化のニュアンスに気づき、日本人（学生や先生）とコミュニケーションをとる時にそれらを意識しているのだろうか。日本の文化的な価値観を知り、衝突しないように配慮することによって、友人や先生との連絡もスムーズになるだろう。また、コミュニケーションの機会が多ければ、日本語の知識や運用能力が向上し、日本の文化や習慣への理解も深くなるだろう。

本稿では、異文化間コミュニケーションにおいて、日本文化に関連したトピックを用いたコミュニケーション頻度の違いと、サールの言語行為の分類（Searle's Classification of Speech Acts）別にコミュニケーション・ブレイクダウンが生起する割合をみることにより、異文化コミュニケーションの能力に影響を与える要因を探った。仮説としては、マレーシア人留学生のコミュニケーション・ブレイクダウンの原因は、日本人とのコミュニケーション頻度の低さにある、と考える。

## 2. 先行研究

言語行動では、話し手の語っている言葉には表と裏の意味があり、コミュニケーションを効果的に行うためには、それらを明確に区別しなければならない。なぜなら、語っている内容が実は表の意味から別の意味に逸れてしまうことがあるからである。例えば比喩のように、話し手は表の意味とは異なる意味を示そうとしているが、聞き手は話し手の本当の意味が分からない場合がある (John R. Searle, 1981:117)。聞き手が表の意味を受け取った結果、コミュニケーション・ブレイクダウンが起こるのである。このような現象は、異文化間のコミュニケーションの場合、さらに複雑な要因が絡み、ブレイクダウンが生じやすくなることが考えられる。

人間のコミュニケーションは親しさの程度によって異なる。例えば、よく知っている人または同じ文化の人と話す場合には自信を持って話すことができるので、話の内容の予想や反応がしやすい。一方、あまり親しくない人または異なる文化の人とコミュニケーションをとる時には予想や反応が難しくなる。外国人はその国の規範、文化、習慣などに関してあまり詳細な情報を持っていないため、当該国の人と話していても内容がスムーズに伝わりにくいことが考えられる。逆に当該国の人も外国人の信仰、興味、行動に関する詳細な情報がないため (Tanya Glaser in Gudykunst & Young, 1995; James W. Neuliep, 2006: 28)、コミュニケーションが曖昧になり、相互に伝達していることの解釈がずれてくる可能性がある。このように双方の文化的な情報が不足していることなど、なんらかの原因でコミュニケーションが成立しなくなる現象を「コミュニケーション・ブレイクダウン」と言う。

文化とコミュニケーションの関連は複雑であり、文化とコミュニケーションは関連があっても互いに働くと仮定する説もある (Thomas K.

Nakayama & Judith N. Martin, 2010: 95)。外国人とのコミュニケーションを円滑に行う為には、その外国人の持つ文化的側面の特徴に注意しなければならない。前述のように、異文化間のコミュニケーションでは、話の内容の予想や反応がしにくいことから、相互の理解が不確実なものになりやすい。それを避けるためには、その外国人の情報に対する正確さや予想のレベルを高くしなければならない。一般に、相手の情報を集める方法は3つある。①受動的にその人（外国人）を観察する ②能動的にその人（外国人）の友人や本から情報を得る ③最後に、やりとりをしたり、質問をしたりして、直接その人（外国人）から情報をもらう（Tanya Glaser in Gudykunst & Young, 1995）。そうすることによって、特定の社会の人々は、正しいだけでなく、社会文化的文脈で適切な方法でコミュニケーションをとることができる（Iffat Farah in Hornberger & Corson, 1997:125）。

外国人が現地の人とコミュニケーションをとるとき、コミュニケーション・ブレイクダウンが生じるのは、異文化を背景とした談話の規範に熟達していないことが原因だと考えられる。多くの外国人は日本人と会話をするとき自文化の会話規則を用いやすいため、日本人側の理解が困難になり、コミュニケーションが途切れてしまうのではないだろうか。このように、言語学習者がL 2で話す際にL 1のコミュニケーション・ストラテジーを用いる現象を「プラグマティック・トランスファー (pragmatic transfer)」という（Yamagashira, 2001:259）。本研究の対象者にとってプラグマティック・トランスファーが起こる場合とは、L 2（日本語）を話す際に、L 1（マレー語）のコミュニケーション・ストラテジー（communicative strategy）を用いることである。日本の生活に慣れていない外国人が日本人との会話においてプラグマティック・トランスファー等を原因とした失敗が続くと、自信がなくなり、社会的・心

理的に孤立する可能性がある。そのため、日本で生活する前に日本の文化や習慣を学ぶ必要がある。

### 3. 研究課題

本研究の課題は以下の通りである。

1. マレーシア人留学生 2、3、4 年生のコミュニケーション頻度の比較検討
2. 日本人との異文化コミュニケーションをとるとき、マレーシア人留学生のコミュニケーション・ブレイクダウンがどの程度生起するかを明らかにすること

### 4. 調査対象者

マレーシア政府人事院の奨学金プログラムである日本留学特別コースでは、中等教育終了資格試験 (Sijil Pelajaran Malaysia : SPM) で高得点をとった優秀な学生を全国から募集する。選抜された学生はマラヤ大学内にある予備教育コース (Ambang Asuhan Jepun:AAJ) で2年間日本語と教科 (数学、物理、化学) と英語を勉強する。2年間の後、日本留学試験 (Examination for Japanese University admission for International Students : EJU) に合格した学生は、日本の国立大学 (理工学部をはじめとする自然科学系の学部中心) に留学ができるのである。

来日した学生は日本の大学で4年間を過ごす。留学期間の学業生活状態を把握し、状況に応じて支援する役割を担うのは、駐日マレーシア大使館の担当官である。マレーシア大使館は毎月の奨学金の振込み、学生の学習状況のチェック (単位取得状況のみ)、各大学の訪問などを実施している。

毎年、新しい留学生は3月の下旬に日本へ行く。一般的に、後輩 (新

1年生)は国立大学にいる先輩たちのところに行くのが普通である。彼らは国費留学生なので、奨学金をもらって生活する。1年生は日本に来たばかりで、日本人とのコミュニケーションという活動がまだ少ないため、アンケートの対象学生は2、3、4年生とした。2～4年生は在日期間が2～4年目となり、日本人とのコミュニケーション経験が蓄積されていると思われることから、日本での会話における文化的要因をある程度理解していると考えられる。

## 5. 問題の作成

アンケートの内容は2つである。文化関連項目別の日本人とのコミュニケーション頻度、学生が日本人とコミュニケーションをとる際に生起するコミュニケーション・ブレイクダウン、である。

文化関連の項目に関して選ばれた文化的な要因は、日本語、料理・食べ物、アルバイト、旅行、アニメ・漫画、季節、スポーツ・ファッション、音楽・踊り、交通機関、祭り・フェスティバルである。学生に、「あなたは〇〇(「日本語」など前述の項目)について、日本人とどのぐらいコミュニケーションがあるか。」のように質問した。そして、5段階のリッカート尺度(5 points Likert Scale)(①とても多い、②多い、③どちらともいえない、④あるけど少ない、⑤あまりない)を使って、コミュニケーションの頻度を測定する。

コミュニケーション・ブレイクダウンの生起に関する質問は全て Yamuna Kachru DCT (Discourse Completion Task) のアンケートを参考にしており、それらの質問はサールの言語行為に基づいて作られたものである。サールの言語行為による三つの答え(a,b,c)を挙げて、学生に選ばせる。それぞれの場面は、正解の選択肢と、この場面では不適切だが学習者が産出しがちな誤用を含んだ2つの選択肢が用意されてい

る。もしその三つの答えが全て適当ではないと思ったら、自分の答え(d)を自由に書かせる。そして、適切な対応ができていれば、そのコミュニケーションが成功したと考え、できていない場合はコミュニケーション・ブレイクダウンと解釈する。

サールの言語行為は5つに分類される。それは、①話者が命題が真であることを主張する言語行為 (assertives)、②相手に何らかの行動をとらせる言語行為 (要求、命令、助言など。directives)、③話者が将来の行動を約束する言語行為 (約束、誓いなど。commissives)、④ある提案・命題に対する話者の態度や感情を表現する言語行為 (祝辞、謝罪、感謝など。expressive)、⑤何らかの宣言を現実化する言語行為 (洗礼、判決、結婚式での聖職者など。declaratives) である。本研究では、このうち⑤を除いた①から④までを取り上げた。それぞれの行為について、学生同士、または学生と先生との会話場面を設定した。設問1・2をdirectivesの場面(依頼・勧誘)、設問3・4をexpressivesの場面(断り・謝罪)、設問5・6をassertivesの場面(提案)、設問7・8をcommissivesの場面(約束・期待)とし、8つの場面を設定した。

## 6. 調査方法

この研究はオンライン・アンケートの方法を用いた。オンライン・アンケートは、コンピュータのウェブサイト上に作成したアンケートに回答してもらう形式のアンケートである。このアンケートは3つのセクション、すなわち①学生の個人情報、②コミュニケーションの頻度、③コミュニケーション・ブレイクダウン、に分かれている。調査期間は2011年6月1日から31日までの約1カ月であった。学生は学生名簿からランダムに選定し、170名にメールを配信した。そのうち、75名(2、3、4年生各25名)から回答を得た。

## 7. 結果と考察

セクション①の項目は学年と性別であり、ここは分析の補助的な項目とした。

図1はセクション②の結果、つまりマレーシア人留学生の日本人とのコミュニケーション頻度を表したものである。学年別にみると、2、3年生は「あるけど少ない」が最も多く、4年生は「多い」と「あるけど少ない」がほぼ同程度である。また、3年生の方で「あまりない」の比率が最も高い。

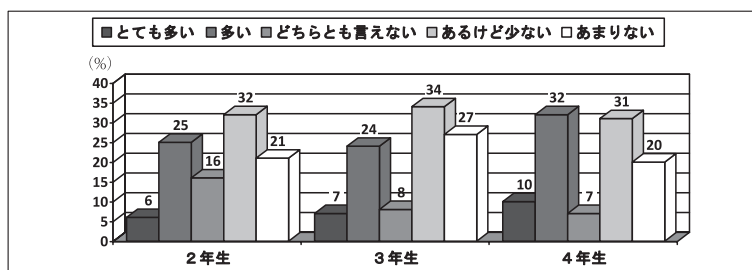


図1 日本人とのコミュニケーション頻度の割合

次に、5つの分類をコミュニケーションが多いグループ（「とても多い」＋「多い」）と少ないグループ（「あるけど少ない」＋「あまりない」）と「どちらともいえない」の3つに分類して考察する。2年生と3年生は「多いグループ」が31%であるのに対し、4年生は42%と11%高い。一方、「少ないグループ」は2年生と4年生が同程度（53%と51%）で3年生が61%と8～10%多い。



表1 学年別日本人とのコミュニケーションの頻度（3分類）

| 学年 | とても多い<br>+多い | どちらともいえない | あるけど少ない<br>+あまりない |
|----|--------------|-----------|-------------------|
| 2  | 31%          | 16%       | 53%               |
| 3  | 31%          | 8%        | 61%               |
| 4  | 42%          | 7%        | 51%               |
| 平均 | 35%          | 10%       | 55%               |

全体の平均値をみると、「多いグループ」より「少ないグループ」の方が多く、マレーシア人留学生は日本人とのコミュニケーションの頻度があまり高くないことが分かった。また、2年生で「どちらともいえない」の割合が高いのは、来日後あまり時間が経っていないことから、日本人とのコミュニケーションに対する意識がまだ低いことが理由ではないかと考えられる。

次にセクション③を分析、考察する。表2はサールの言語行為の分類に従って作成した4つの機能（8つの場面）における対応を答えさせた結果である。網掛けの記号が正解である。

表2 学年別場面別の解答の選択人数

単位（人）

| 問  | 1 |    |    |   | 2  |    |   |   | 3 |    |   |   | 4  |   |   |   |
|----|---|----|----|---|----|----|---|---|---|----|---|---|----|---|---|---|
|    | a | b  | c  | d | a  | b  | c | d | a | b  | c | d | a  | b | c | d |
| 2年 | 0 | 15 | 10 |   | 11 | 14 | 0 |   | 1 | 21 | 3 |   | 18 | 6 | 1 |   |
| 3年 | 2 | 18 | 5  |   | 9  | 16 | 0 | 2 | 3 | 20 | 2 | 2 | 21 | 2 | 2 | 3 |
| 4年 | 2 | 18 | 5  | 1 | 11 | 14 | 0 | 2 | 5 | 16 | 4 | 3 | 17 | 2 | 6 | 1 |

| 問  | 5 |    |    |   | 6  |    |   |   | 7  |   |   |   | 8  |    |    |   |
|----|---|----|----|---|----|----|---|---|----|---|---|---|----|----|----|---|
|    | a | b  | c  | d | a  | b  | c | d | a  | b | c | d | a  | b  | c  | d |
| 2年 | 0 | 13 | 12 |   | 15 | 10 | 0 |   | 19 | 6 | 0 |   | 13 | 9  | 3  |   |
| 3年 | 1 | 15 | 9  | 2 | 14 | 11 | 0 | 3 | 18 | 3 | 4 |   | 15 | 6  | 4  |   |
| 4年 | 0 | 15 | 19 |   | 11 | 13 | 1 | 2 | 19 | 2 | 4 | 1 | 14 | 10 | 11 | 2 |

※網掛けは正解を示す

日本におけるマレーシア人留学生の文化的要因による  
コミュニケーション・ブレイクダウン

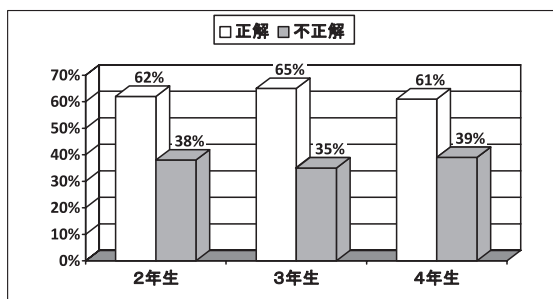


図2 学年別コミュニケーション正解・不正解の割合

図2からわかるように、2年生は62%が正解し、38%が不正解であった。すなわち、62%のコミュニケーションが成功し、38%が失敗、つまりコミュニケーション・ブレイクダウンが起こると言える。同様に、3年生は65%が正解し、35%が不正解、4年生は61%が正解し、39%が不正解であった。分散分析を行って、学年間で比較したところ、統計的な差は見られなかった。

表3 コミュニケーション・ブレイクダウンの割合

| 学年 | コミュニケーション成功 | コミュニケーション失敗<br>(ブレイクダウン) |
|----|-------------|--------------------------|
| 2  | 62%         | 38%                      |
| 3  | 65%         | 35%                      |
| 4  | 61%         | 39%                      |
| 平均 | 63%         | 37%                      |

以上の結果と考察から、コミュニケーションの頻度はそれほど高くなかったが、コミュニケーションの成功率はいずれの学年においても60%を超えており、文化的な話題を扱ったコミュニケーションの頻度が低いために異文化理解度が低く、コミュニケーションの成功率が低いのではないかという推測はあてはまらないことが明らかになった。

コミュニケーション頻度とコミュニケーションの成功率の関係を調べ

るために相関係数の算出と単回帰分析を行った。全体と学年ごとに相関係数を算出したところ、全体と2年生、3年生ではほとんど相関がみられなかったが、4年生で弱い相関がみられた ( $r = .36$ )。すなわち、4年生ではコミュニケーション頻度が高い留学生は、コミュニケーションの成功率も高く、頻度が低い留学生は成功率も低いという傾向がみられた。次に、全体と学年ごとに単回帰分析を行った結果、いずれにおいても有意な結果は得られなかった。すなわち、コミュニケーションの経験を積むことが直接コミュニケーションをスムーズに成功させることにはつながらないことが示された。

単回帰分析の結果から、日本人と文化に関わる話題でのコミュニケーション頻度を増やすことで、コミュニケーションが成功するようになるとは言えないことが分かったが、4年生で弱い相関がでていることから、日本での滞在が長期化することにより、他の何らかの日本語経験や知識によって、コミュニケーション頻度が高い場合にコミュニケーションに成功しやすいことが示唆されたといえる。

## 8. まとめと今後の課題

本研究で取り上げた文化的な話題について日本人と話すかどうかは、コミュニケーションの成功率との関連が少ないようである。また、4つの談話機能（8つの場面）に対する解答は、学年を問わず6割以上の正解率、つまりコミュニケーション・ブレイクダウンの生起は4割未満であったが、紙面で時間を掛けて解答する方法を採ったため、実際に日本人と会話を行う時に全く同じような対応が出来るかどうかについては検討の余地がある。彼らは日本語の学習で得た知識や経験により、正しい対応の仕方については分かっているが、実際に使えるかどうかを明らかにするためには更なる調査が待たれる。また、コミュニケーション・ブ

ブレイクダウンの原因が日本文化の理解不足によるものか、語用に関する理解不足によるものかの検討が本稿では十分にできなかった。マレーシア人留学生のコミュニケーション成功のために、今後、どのような文化的知識が必要かを更に検討する必要があるだろう。

## 9. 参考文献

1. Farah, I. (1998) . Ethnography of communication. In Hornberger, N.H. and Carson, D. (Ed.) Encyclopedia of Language and Education, Volume 8: Research Methods in Language and Education. pp 125-133. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
2. Gudykunst, W. & Young, Y. K. (1995) . Communicating with strangers: An approach to intercultural communication, in Bridges Not Wall, ed. John Stewart, 6th edition. (New York: McGraw-Hill, 1995) , pp. 429-442.  
<<http://www.colorado.edu/conflict/peace/example/gudy6816.htm>>
3. Horvat, A. (2000) . Japanese beyond words. Berkeley, California, Stone Bridge Press.
4. Kachru, Y. (1998) . Culture and speech acts: Evidence from Indians and Singapore English. Studies in the Linguistic Sciences. Volume 28, Number 1 (Spring 1998) . University of Illinois at Urbana-Champaign.
5. Lai, S.H. & Kato, T. (2008) . Intercultural communication in the Japanese language classroom in Singapore. A comparison of students and teachers perceptions. Journal of International Communication, No.16. ISSN 1404-1634. National University of

Singapore.

<<http://www.immi.se/jicc/index.php/jicc/article/view/70/42>>

6. Martin, Judith N. & Nakayama, Thomas K. (2010) . Intercultural Communication in Context. Boston, Kuala Lumpur, Singapore. McGraw Hill Higher Education.
7. Neuliep, James W. (2006) . Intercultural communication: A contextual approach. Thousand Oaks, London, New Delhi. Sage Publications.
8. Searle, John R. (1981) . Expression and meaning: Studies in the Theory of Speech Acts. Cambridge, London, New York, New Rochelle, Melbourne, Sydney. Cambridge University Press.
9. Yamagashira, H. (2001) Pragmatic Transfer in Japanese ESL Refusals. 鹿児島純心女子短期大学研究紀要, 第31号, 259 – 275.

## Appendix

### アンケート

1. あなたは日本人（学生と先生）に下を書いてあるトピックについて、どのぐらいコミュニケーションをするか。

1～5まで1つまるをつけてください。

(1：とても多い 2：多い 3：どちらとも言えない

4：あるけど少ない 5：あまりない)

|                |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|
| 1. 日本語         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 食べ物・料理      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. アルバイト       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 旅行          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. マンガ・アニメ     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 季節          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. スポーツ・ファッション | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 音楽・踊り       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 交通機関        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 祭り・フェスティバル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

### 2. 場面

(Directive-requesting-依頼・勧誘) (1. 学生) (2. 先生)

1. 今日の授業はあまりわかりませんでした。先生によると、今回の試験に関しては今日の授業はとても重要だそうです。親しい日本人の友達も同様にわかりませんでした。しかし、あまり親しくない日本人のクラスメイトはとても得意なので、彼に教えてもらいた

いと思っています。彼に何と言いますか。

- a. 今日の授業はあまりわからなかったので、私を教えてください。
- b. 今日の授業はあまりわからなかったので、私に教えてもらえませんか。(o)
- c. 今日の授業はあまりわからなかったので、私が教えられますか。
- d. (自由記述)

2. あなたのお世話になった先生のおかげで、勉強のほうが進んでいます。あなたはその先生に感謝の気持ちを表すために、今週の金曜日に昼ごはんをごちそうしたいと思います。先生に何と言いますか。

- a. 先生、今週金曜日、昼食でもどうですか。(o)
- b. 先生、今週金曜日、昼飯でも行きませんか。
- c. 先生、今週金曜日、昼食でも食べますか。
- d. (自由記述)

(Expressives-apolozing-断り・謝罪) (3. 学生) (4. 先生)

3. 来週、日本人のクラスメイトがあなたの親しい日本人の友達のために誕生日パーティーをします。ある高級なレストランです予定です。参加する人は1万円も払わなければなりません。あなたはその大金を払うのが難しいので出席しません。その親しい友達に何と言いますか。

- a. あのう、来週のパーティーは出席できないから、また今度しましょう。

- b. あのう、来週のパーティーは出席できないのですが…。すみません。  
(o)
- c. あのう、来週のパーティーは出席できないのは参加費が高いです。
- d. (自由記述)

4. 携帯電話にあなたの先生から電話がありました。あなたは電車に乗っていて、その電話に出られませんでした。あなたは電車を降りた後で先生に電話がかけられました。先生に何と言いますか。

- a. 返事が遅れて、どうもすみません。(o)
- b. 返事が遅れて、どうか許してください。
- c. 返事が遅れて、電車に乗っていたからです。
- d. (自由記述)

(Assertives-suggesting-提案) (5. 学生) (6. 学生)

5. 日本人の友達がマレーシアへ旅行をしたいと言っています。マレーシアの観光地のパンフレットを幾つかあなたに見せました。時間は週末だけです。友達におすすめの場所について意見を聞かれました。友達に何と言いますか。

- a. 買い物なら、ペナンへ行かなければなりません。
- b. 買い物なら、クアラルンプールの方がいいと思います。(o)
- c. 買い物なら、ランカウイ島はだめですね。
- d. (自由記述)



6. 学校の授業でグループに分かれてプロジェクトワークをすることになりました。それぞれのグループは週一回プロジェクトの検討をしなければなりません。グループのリーダーはあなたに、「何曜日がいいですか。」と聞きました。あなたは金曜日を希望しています。グループのリーダーに何と言いますか。
- a. 金曜日はいいと思います。(o)
  - b. 金曜日なら助かりますよ。
  - c. 金曜日にしてください。
  - d. (自由記述)

(Commissive-promising-約束・期待) (7. 先生) (8. 先生)

7. あなたは大学院に進学したいです。しかし成績があまりよくないから先生は推薦状を出さないと仰いました。しかし、どうしても進学したいので、もう一度先生のところへ考え直してもらいに行きました。あなたは頑張ることを約束する言葉を先生に言いたいと思っています。先生に何と言いますか。
- a. もし進学ができれば、必ずいい結果を先生に見せます。(o)
  - b. もし進学ができれば、先生のゼミに入れてもらえませんか。
  - c. もし進学ができれば、先生の専門を研究したいです。
  - d. (自由記述)
8. あなたの先生は工学部のセミナーにメイン・スピーカー (Keynote Speaker) として招待されました。あなたは先生をととても尊敬していますのでそのセミナーに出席することに決めました。あなたは

日本におけるマレーシア人留学生の文化的要因による  
コミュニケーション・ブレイクダウン

セミナーに出席したいとおもっています。先生に何と言いますか。

- a. 先生のセミナーに出席することを楽しみにしています。(o)
- b. 先生のセミナーに出席することは勉強になります。
- c. 先生のセミナーに出席することがうれしく感じました。
- d. (自由記述)

①項目別・学年別のコミュニケーション頻度

表1 2年生のコミュニケーションの頻度の度数と割合

| 文化要因            | とても多い    | 多い                      | どちらとも<br>言えない          | あるけど<br>少ない             | あまりない                   |
|-----------------|----------|-------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 日本語             | 0 (0.0)  | 6 (24.0)                | 6 (24.0)               | <b><u>12 (48.0)</u></b> | 1 (4.0)                 |
| 食べ物・料理          | 4 (16.7) | 5 (20.8)                | 3 (12.5)               | <b><u>9 (37.5)</u></b>  | 3 (12.5)                |
| アルバイト           | 0 (0.0)  | 3 (12.0)                | 2 (8.0)                | 8 (32.0)                | <b><u>12 (48.0)</u></b> |
| 旅行              | 1 (4.0)  | 8 (32.0)                | 4 (16.0)               | <b><u>9 (36.0)</u></b>  | 3 (12.0)                |
| マンガ・アニメ         | 1 (4.0)  | 3 (12.0)                | 1 (4.0)                | 9 (36.0)                | <b><u>11 (44.0)</u></b> |
| 季節              | 2 (8.0)  | <b><u>13 (52.0)</u></b> | 5 (20.0)               | 2 (8.0)                 | 3 (12.0)                |
| スポーツ・<br>ファッション | 1 (4.0)  | 4 (16.0)                | 4 (16.0)               | <b><u>8 (32.0)</u></b>  | <b><u>8 (32.0)</u></b>  |
| 音楽・踊り           | 1 (4.0)  | 7 (28.0)                | 2 (8.0)                | <b><u>12 (48.0)</u></b> | 3 (12.0)                |
| 交通機関            | 2 (8.0)  | 7 (28.0)                | <b><u>8 (32.0)</u></b> | 4 (16.0)                | 4 (16.0)                |
| 祭り・<br>フェスティバル  | 3 (10.7) | <b><u>7 (25.0)</u></b>  | 5 (17.9)               | <b><u>7 (25.0)</u></b>  | 6 (21.4)                |
| 全体              | 15 (6.0) | 63 (25.0)               | 40 (15.9)              | <b><u>80 (31.7)</u></b> | 54 (21.4)               |

※括弧内は割合。太字・下線の数字は最も高い数値

表2 3年生のコミュニケーションの頻度の度数と割合

| 文化要因        | とても多い    | 多い               | どちらとも言えない | あるけど少ない          | あまりない            |
|-------------|----------|------------------|-----------|------------------|------------------|
| 日本語         | 1 (4.3)  | 2 (8.7)          | 5 (21.7)  | <b>11 (47.8)</b> | 4 (17.4)         |
| 食べ物・料理      | 3 (12.0) | 6 (24.0)         | 4 (16.0)  | <b>7 (47.8)</b>  | 5 (20.0)         |
| アルバイト       | 1 (4.0)  | 3 (12.0)         | 2 (8.0)   | 9 (36.0)         | <b>10 (40.0)</b> |
| 旅行          | 1 (4.0)  | <b>10 (40.0)</b> | 1 (4.0)   | 9 (36.0)         | 4 (16.0)         |
| マンガ・アニメ     | 1 (4.0)  | 5 (20.0)         | 0 (0.0)   | 9 (36.0)         | <b>10 (40.0)</b> |
| 季節          | 3 (12.0) | <b>10 (40.0)</b> | 1 (4.0)   | 7 (28.0)         | 4 (16.0)         |
| スポーツ・ファッション | 0 (0.0)  | 6 (24.0)         | 2 (8.0)   | 8 (32.0)         | <b>9 (36.0)</b>  |
| 音楽・踊り       | 1 (4.0)  | 6 (24.0)         | 1 (4.0)   | 5 (20.0)         | <b>12 (48.0)</b> |
| 交通機関        | 4 (16.0) | 3 (12.0)         | 2 (8.0)   | <b>10 (40.0)</b> | 6 (24.0)         |
| 祭り・フェスティバル  | 2 (8.0)  | <b>8 (32.0)</b>  | 2 (8.0)   | 7 (28.0)         | 6 (24.0)         |
| 全体          | 17 (6.9) | 59 (23.8)        | 20 (8.1)  | <b>82 (33.1)</b> | 70 (28.2)        |

※括弧内は割合。太字・下線の数字は最も高い数値

表3 4年生のコミュニケーションの頻度の度数と割合

| 文化要因        | とても多い     | 多い               | どちらとも言えない | あるけど少ない         | あまりない           |
|-------------|-----------|------------------|-----------|-----------------|-----------------|
| 日本語         | 1 (4.0)   | <b>10 (40.0)</b> | 2 (8.0)   | 9 (36.0)        | 3 (12.0)        |
| 食べ物・料理      | 2 (8.0)   | 8 (32.0)         | 0 (0.0)   | <b>9 (36.0)</b> | 6 (24.0)        |
| アルバイト       | 2 (8.0)   | 7 (28.0)         | 0 (0.0)   | 7 (28.0)        | <b>9 (36.0)</b> |
| 旅行          | 3 (12.0)  | <b>10 (40.0)</b> | 2 (8.0)   | 8 (32.0)        | 2 (8.0)         |
| マンガ・アニメ     | 3 (12.0)  | 2 (8.0)          | 2 (8.0)   | <b>9 (36.0)</b> | <b>9 (36.0)</b> |
| 季節          | 6 (24.0)  | <b>10 (40.0)</b> | 3 (12.0)  | 6 (24.0)        | 0 (0.0)         |
| スポーツ・ファッション | 2 (8.0)   | 7 (28.0)         | 2 (8.0)   | 5 (20.0)        | <b>9 (36.0)</b> |
| 音楽・踊り       | 1 (4.0)   | <b>8 (32.0)</b>  | 1 (4.0)   | <b>8 (32.0)</b> | 7 (28.0)        |
| 交通機関        | 2 (8.0)   | <b>8 (32.0)</b>  | 4 (16.0)  | <b>8 (32.0)</b> | 3 (12.0)        |
| 祭り・フェスティバル  | 4 (16.0)  | <b>9 (36.0)</b>  | 2 (8.0)   | 8 (32.0)        | 2 (8.0)         |
| 全体          | 26 (10.4) | <b>79 (31.7)</b> | 16 (6.4)  | 77 (30.9)       | 51 (20.5)       |

※括弧内は割合。太字・下線の数字は最も高い数値

日本におけるマレーシア人留学生の文化的要因による  
コミュニケーション・ブレイクダウン

②学年別の解答の割合

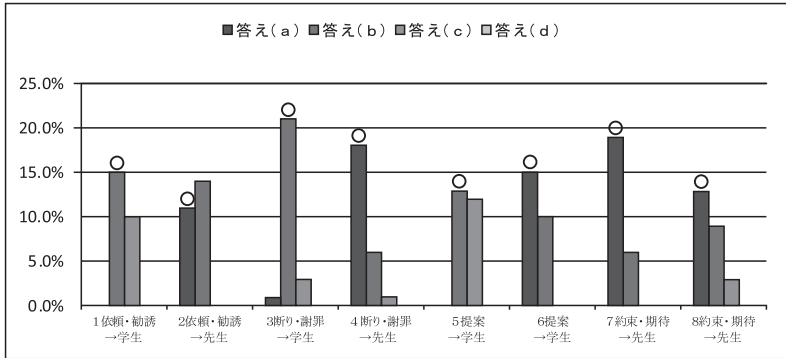


図1 2年生の割合

※○は正解の記号

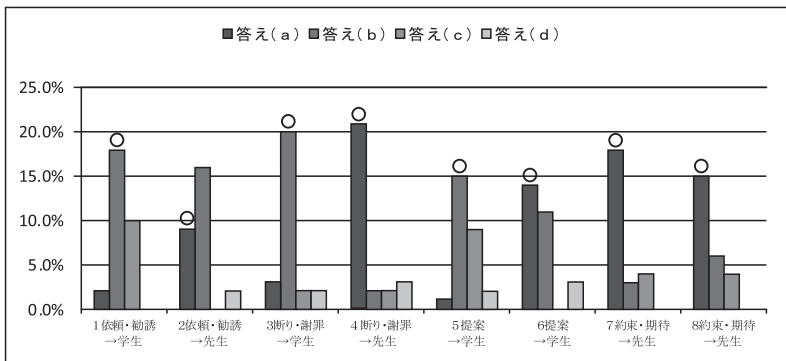


図2 3年生の割合

※○は正解の記号

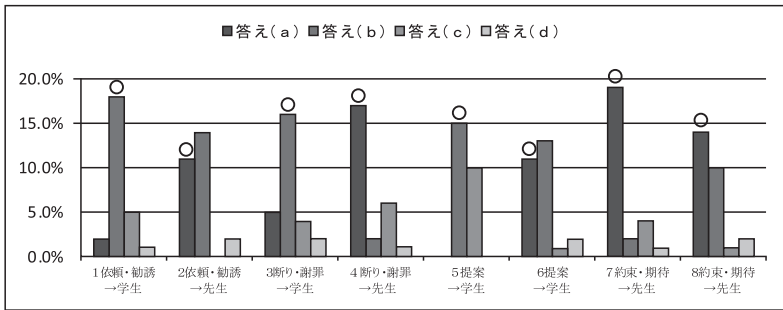


図3 4年生の割合

※○は正解の記号